

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																	
広島工業大学専門学校		昭和59年1月14日		坂本 眞平		〒733-8533 広島県広島市西区福島町2-1-1 (電話) 082-295-5111																	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																	
学校法人鶴学園		昭和32年11月27日		鶴 衛		〒731-5193 広島県広島市佐伯区三宅2-1-1 (電話) 082-921-3121																	
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
工業	工業専門課程	ITスペシャリスト学科		平成22年文部科学省 告示第31号	-																		
学科の目的 IT知識・技術の基礎・基本を学び、システム開発やプログラミング能力を身に付ける。将来システムエンジニアとして、プロジェクトに参画できる人材を育成する。																							
認定年月日 平成26年3月31日																							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
3	年間	2,944	1,888	0	1,440	0	0																
生徒総定員																							
120人		生徒実員		留學生数(生徒実員の内)		専任教員数																	
43人		2人		4人		兼任教員数																	
						7人																	
						11人																	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～翌年3月31日			成績評価																			
長期休み	■学年始:4月3日 ■夏季:7月23日～8月31日 ■冬季:12月23日～翌年1月7日 ■学年末:3月18日～4月3日			卒業・進級条件																			
学修支援等	■クラス担任制:有 ■個別相談・指導等の対応 出席率不良(80%未満)学生について、個別の状況把握に努め早期対応を行う。長期欠席者に対しては学科長、校長等が本人に対して保護者を交えて生活指導・進路指導を行う。			課外活動																			
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) ㈱ECS、㈱アイティーエスピー、平和情報システム㈱、日本自動車開発㈱、㈱四凱ソフトジャパン、㈱第一技研			■課外活動の種類 学友会、体育祭実行委員会、専門祭実行委員会、地域ボランティア清掃、広島市グリーンパートナー等。																			
	■就職指導内容 学生向け就職ガイダンス 生き方講座SPI・面接指導 過去入社試験報告書情報提供等			■サークル活動:有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)																			
		■卒業業者数 9人		<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>情報処理技能検定試験表計算2級</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>情報処理技能検定試験表計算準2級</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	③	9人	2人	情報処理技能検定試験表計算2級	③	4人	4人	情報処理技能検定試験表計算準2級	③	4人	4人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
基本情報技術者試験	③	9人	2人																				
情報処理技能検定試験表計算2級	③	4人	4人																				
情報処理技能検定試験表計算準2級	③	4人	4人																				
		■就職希望者数 8人		<p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するものを記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p>																			
		■就職者数 8人		■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																			
		■就職率 100%																					
		■卒業業者に占める就職者の割合 88.8%																					
		■その他 -進学 1名																					
		(令和2年度卒業生に関する 令和3年5月1日時点の情報)																					
中途退学の現状	■中途退学者 1名 令和2年4月1日時点において、在学者43名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者42名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 学校生活への不適合、進路変更(就職)			■中退率 2.3%																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:有 ※有の場合、制度内容を記入 広島工業大学専門学校同窓会奨学金(給付型・年額6万円) ■専門実践教育訓練給付:非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	https://www.hitp.ac.jp/																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
(2)「学校基本調査」における「卒業業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業業者に占める就職者の割合」とは、全卒業業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

日進月歩で進化するIT業界において、即戦力となる人材を育成するために企業等と連携し、システムエンジニアやプログラマに求められる知識・技術をカリキュラムおよび授業内容に反映させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業・業界団体等と連携し、各課程及び学科における技術者育成のための実践的な職業教育の充実と、教育の質の保証・向上及び教員の資質・指導力向上等を図ることを目的に、広島工業大学専門学校学則第50条により産学連携協議会を設置し、その中に、教育課程編成委員会を置く。当該委員会では、以下の事項を審議し、審議結果は教育部長及び各学科長が中心になって教育課程を見直す。

- ①教育課程の編成及び実施
- ②教育計画に関する事項
- ③教材の開発等

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

学校関係者委員

令和3年3月31日現在

名前	役職・所属	職責等
坂本 眞平	校長	教育課程編成委員会責任者
瀧口 啓倫	教頭	委員
竹田 睦	教育部長	委員
小笠原 和教	情報系学科長	委員
吉本 恒雄	情報系教員	委員
須山 達雄	情報系教員	委員
中田 智	情報系教員	委員

企業関係者委員

令和3年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 玲子	一般社団法人広島県情報産業協会	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	①
中元 正彦	株式会社 E C S	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
田淵 信夫	株式会社 リマック	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
まつもと ゆきひろ	Rubyアソシエーション	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	①

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 6月、翌年2月

(開催日時(実績))

第1回 令和2年 6月 1日 書面会議

第2回 令和2年11月11日 15:00～17:00

第3回 令和3年 2月25日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

令和2年度より、新カリキュラム運用開始

委員会等の意見	学科の対応
AIをどう活用するかが問われている。AIの概念や基礎知識を身につける指導をしてもらいたい。	令和4年度より開講するAI関連科目の準備のため、原則無償で利用できるAIツールを調査中である。併せて、LEGOロボットEV3による機械学習や商品仕分けロボットアームを導入し深層学習などの実習を検討中。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ITに関する実践的な技術が必要とされる中で、システム開発等に関わる技術やスキルを学生に身に付けさせるため、専門性に特化したシステム開発企業と連携し、当該企業の技術者を講師とする実践的な授業を展開することとする。また、同時に実習における学習成果等に対して評価を行う体制を学校と連携して取ることが可能な企業であることとしている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

システム開発に関する企画・開発力を強化するため、ビジネスモデルの企画、「Ruby」「Salesforce」の開発基盤を活用したシステム開発を実施した。企業からの提案課題について、グループで作成し、成果物の発表を企業講師によって評価して頂く。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
システム開発実践	クラウド型システム開発ツールである「Salesforce」を用いて、学校業務の一部である成績管理、出席管理システムの企画から開発までの演習を行う	株式会社ECS
セキュリティ演習	仮想環境に用意されたWordPressサイトへの攻撃について、攻撃前および攻撃後の様子から攻撃の種類を予測し、防御方法を検討し対策を実施する。	株式会社ネットスクエア
Rubyプログラミング基礎	FizzBuzzプログラムを題材に、JavaScriptを用いたテスト駆動型開発、リファクタリング等の開発手法について学ぶ。資料に基づき、FizzBuzzプログラムについてRubyによるテスト駆動型開発を行う。	株式会社アイヒデコーポレーション

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員が、当学科における急速に変化する経済社会のイノベーションに対応できるよう、専門的な知識や技術・技能を高め、また、学生に対する指導力等の向上を図るため、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会での審議を通じて示された意見や情報等を十分に把握した上で以下の研修等を計画・実施し、それに参加することで教育活動の充実に努めることを基本方針とする。教員の資質・指導力向上等については、「広島工業大学専門学校教員研修に関する内規」に基づき、専門能力向上および指導力向上を図るための研修を行うこととしている。

- ① 企業が開催する研修会
- ② 協会主催学術講演会・講習会・研修会
- ③ 業界団体主催の研修会

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

対象	研修名称	主催	研修期間	研修内容
教員	産業用ロボットの現状とこれから	広島工業大学専門学校	令和2年9月10日	【研修目的・概要】 学生支援体制の充実を図るため、実践的かつ専門的な能力の向上を目的とし、産業用ロボットの現状とロボット技術の応用事例に関する研修会へ参加した。 【講師】 株式会社デンソーウェーブ 益田博文 【対象科目】 ものづくり概論Ⅰ・Ⅱ ロボット工学Ⅰ・Ⅱ
教員	オンライン授業における「プログラミング実習」	一般社団法人全国専門学校情報教育協会	令和2年10月8日	【研修目的・概要】 ポストコロナ禍における新たな学びの在り方に対応するため、遠隔教育によるプログラミング実習の手法と評価方法について事例研究とノウハウ共有を行った。 ・Microsoft MakecodeとPythonを使用したIoT機器制御プログラミング実習 【講師】 日本工学院専門学校 高地 昭彦 【対象科目】 オブジェクトプログラミング
教員	オンライン授業における「ネットワーク実習」	一般社団法人全国専門学校情報教育協会	令和2年10月15日	【研修目的・概要】 オンライン授業におけるネットワーク実習の手法と評価方法について事例研究・Cisco PacketTracerによるシミュレーターを使用したネットワーク構築演習、パケット分析調査 【講師】 日本工学院専門学校 田嶋 益光 【対象科目】 ネットワーク基礎、ネットワーク応用、ネットワーク構築
教員	遠隔授業 実践力重視のJava実習	一般社団法人全国専門学校情報教育協会	令和2年11月12日	【研修目的・概要】 遠隔授業に不足しがちな「学ぶ楽しさ」を感じることを第1目的とし、遠隔では指導が難しい環境構築を行わなくても良いプログラミングツールの紹介とツールを使用した指導方法。 ・Paiza.io, AtCoderを使用したプログラミング実習 【講師】 専門学校中央情報大学 内池 雄 【対象科目】 オブジェクトプログラミング

教員	オンラインによる1年生対象「Java基礎」授業の事例紹介	一般社団法人 全国専門学校 情報教育協会	令和2年 12月3日	【研修目的・概要】 初めてプログラミングを学ぶ学生に対し、プログラミング技法やオブジェクト指向の概念を分かりやすく伝える指導法を学ぶ。 【講師】吉田学園情報ビジネス専門学校 大平 岳将 【対象科目】 オブジェクトプログラミング
教員	オンライン上でのマイコンボードによるIoT実習	一般社団法人 全国専門学校 情報教育協会	令和2年 12月17日	【研修目的・概要】 マイコンボード(Obniz)を実習教材に使ったオンライン授業の事例を通して、オンラインで行うIoT実習のノウハウを学ぶ。 【講師】情報科学専門学校 武藤 幸一 【対象科目】 IoTデバイス演習

②指導力の修得・向上のための研修等

対象	研修名称	主催	研修期間	研修内容
教員	情報セキュリティ研修(オンライン)	学校法人鶴学園	令和2年 12月9日 ～ 12月23日	【研修目的・概要】 組織(学校)におけるインシデント管理や対策等情報セキュリティの重要性を理解し、日常業務や学生のITリテラシー指導などに活かす。 【講師】 株式会社ネットスクエア 村上 賢二 【対象科目】 各教科、学生指導
教員	デジタルトランスフォーメーションの本質と求められる力とは	一般社団法人 全国専門学校 情報教育協会	令和2年 12月9日	【研修目的・概要】 多様化しているアプリケーションについて理解し、システム化を図るスキルを養う。 【講師】日本マイクロソフト株式会社 マイクロソフトテクノロジーセンター長 吉田 雄哉 【対象科目】 システム開発実践、各科目
教員	LMSの特性を活かしたピアラーニングの実践	一般社団法人 全国専門学校 情報教育協会	令和2年 12月22日	【研修目的】 「授業の見学者」状態になりがちなオンライン授業での学生を、LMSを効果的に活用して「授業の参加者」へ変化させるための手法およびオンラインだからこそ実現できる指導方法を学ぶ ・学習履歴データを活用した授業改善 ・投票、フォーラム機能によるピアラーニング 【講師】情報科学専門学校 伊藤 泰宏 【対象科目】 各種科目

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

対象	研修名称	主催	研修時期	研修目的・概要
教員	HiBiS部会への参加	HiBiS	令和3年5月以降	【研修目的・概要】 HiBiSが主催する各部会へ参加し、企業と連携し専門知識を深める。 ① インターネットセキュリティ部会 ② AI・IoT研究部会 ③ ビジネスモデル研究部会 【対象科目】 セキュリティ、セキュリティ演習、ビジネスモデリング演習

②指導力の修得・向上のための研修等

対象	研修名称	主催	研修時期	研修目的・概要
教員	普通救命講習	広島市救急教育センター	令和3年8月	【研修目的・概要】学生の命を守るため、緊急時に備え、心肺蘇生法やAED(自動体外式除細動器)の使用法、止血方法など応急手当の知識・技術を学ぶ機会とする為、講習会に参加する。 【講師】消防署 救急隊員 【対象科目】学校業務全般 生き方講座

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

企業・業界団体・学校関係者・卒業生等の委員で構成される学校関係者評価委員会を構成し、自己評価報告書を基に教育目標に沿った人材育成や学校運営等の教育活動を評価することで、各課程及び学科における教育への取り組みの改善等を促進し、教育の質の保証・向上並びに教員の資質・指導力向上等を図る。

当該委員会では以下の事項について評価・助言を求める。

- ①自己評価の内容
- ②自己評価の結果に基づく今後の改善方向
- ③学校運営に向けた取り組み
- ④重点的教育の取り組み内容

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標・育人人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

評価結果ならびに改善事項は、教職員全員で共有するとともに、各課程及び学科における具体的対応の検討結果を教育課程編成委員会に反映させることで、次年度の教育課程のその他学校運営の改善に活用し、技術者育成のための実践的な職業教育の充実と、教育の質の保証・向上を図る。

学校関係者評価の意見等	活用状況
コロナウイルス感染症によって学校運営も大きな制約を受けたと理解するが、対面授業が行えない状況下での対応方法として動画配信等の方法は考えられるか。	対面授業が実施できない期間については、オンライン授業をはじめ、紙面等による家庭学習等で進めてきたが、動画配信を含むオンライン教育は、機材、通信費等の費用の問題もある。特に一人暮らしの学生や留学生にとって大きな負担となることも視野に入れる必要がある。また、本校は工業系の専門学校であることから、実習が重要であり、動画等のオンラインでの指導が難しい一面がある。オンラインで出来る事、出来ない事を熟慮し、対応する必要がある。
学習成果プレゼン大会の内容を拝見し興味を持った。特に今年の音響映像メディア学科の発表内容は大変良かった。学外の人の為に外部へ取材に行き、折衝し、作品をつくり提供する。様々な困難に遭遇し、解決に導いた苦勞が伝わってきた。課題解決型授業として大切な事であり、素晴らしいと感じる。	本校では、職業実践専門課程として、全学科で産学連携授業を実施している。特に課題解決型授業(PBL)を展開し、学生の課題解決能力の育成に力を入れている。今後も音響映像メディア学科のみならず、全学科で外部からの評価を頂けるような取り組みを継続していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

学校関係者委員

令和3年3月31日現在

名 前	役職・所属	職責等
坂 本 眞 平	校長	学校関係者評価委員会委員長
瀧 口 啓 倫	教頭	委員
竹 田 睦	教育部長	委員

企業関係者委員

令和3年3月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
山 口 健 治	学校法人鶴学園 広島工業大学高等学校	令和2年4月1日～令和4年3月31日（2年）	高校
高 橋 玲 子	一般社団法人 広島県情報産業協会	平成31年4月1日～令和3年3月31日（2年）	業界団体
吉 川 滋	公益財団法人 日本照明家協会中国支部	平成31年4月1日～令和3年3月31日（2年）	業界団体
古 本 哲 男	テンパール工業株式会社	平成31年4月1日～令和3年3月31日（2年）	企業
宮 内 秀 実	河井建設工業株式会社	平成31年4月1日～令和3年3月31日（2年）	企業 地域
大 畠 晋 也	広島工業大学専門学校同窓会	平成31年4月1日～令和3年3月31日（2年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 毎年7月末

URL: <https://www.hitp.ac.jp/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育活動及び学校運営の状況とそれらの自己評価報告書を、学校関係者評価委員会ならびに教育課程編成委員会の企業・関係業界・学術機関の委員に配布・公開し意見を求めることで、理解と助言を求め、もって教育の質保証・向上を図ることを基本方針としている。併せて、関係事項をホームページだけでなく、学生募集関係文書、採用案内関係文書等で広く公開し、積極的な情報提供を行っている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	国際連携の状況
(11) その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

職業実践専門課程に関する情報は、各種メディアおよび学校行事等を通じて提供しています。

URL: https://www.hitp.ac.jp/	随時更新(職業実践専門課程認定に伴う更新 7月、12月)
学習プレゼン大会(学校行事)の開催	2月(職業実践連携企業、内定先企業、高等学校、保護者、新入学生等に広く案内)
学校案内パンフレット	4月以降配布(入学希望者向け)
就職案内パンフレット	3月以降送付(求人企業向け)

授業科目等の概要

(工業専門課程ITスペシャリスト学科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			生き方講座Ⅰ	仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身につける。	1前	32	1			○	○		○		
○			生き方講座Ⅱ	仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身につける。	1後	32	1			○	○		○		
○			文章技術	明快で論理的な「レポート」「実習報告書」等の作成能力を育成すると共に、論理的な思考を養う。	1後	32	2	○			○			○	
○			英語Ⅰ	短い読解文を読み文法的な基礎力、語彙力を身につける。また、シャドーイングによりプロソディを改善し、リスニングスキルを向上させるとともに会話表現を学ぶ。	1前	32	2	○			○			○	
○			コンピュータシステム	ハードウェア、ソフトウェア、コンピュータシステムに関する知識を学ぶ	1前	96	6	○			○			○	
○			データベース基礎	関係データベースを中心に、E-Rモデル、正規化、関係演算、トランザクション処理、障害回復方法について学ぶ。	1前	32	2	○			○			○	
○			システム設計基礎	システム開発技法に関する基本計画、外部設計、内部設計、プログラム設計、運用・保守の作業手順をドキュメント化し、簡単なシステムを作成しながら理解する。	1前	32	2	○			○			○	
○			ネットワーク基礎	TCP/IPネットワークの構成と仕組み、ネットワーク機器の働き、各種プロトコルを学ぶ。	1前	32	2	○			○			○	
○			情報化と経営	ストラテジ分野である、情報システム戦略、経営戦略、企業と法務を学ぶ	1前	64	4	○			○			○	
○			プログラミング入門	ビジュアルプログラミングソフトウェアを使用してプログラムを作成し、基本アルゴリズムを学ぶ	1前	64	3	△			○	○		○	
○			表計算基礎	表計算ソフトを利用して、基本的な機能や関数、表作成やグラフ作成などの活用方法を学ぶ	1前	64	2				○	○		○	

○		Webデザイン基礎	Webページを作成するための、Webデザイン、HTML、CSSの基礎知識を学び、Webサイト制作の実践を行う	1後	64	3	△		○	○			○
○		システム設計応用	システム開発についての知識の取得と、各システム開発の工程で実施すべき事柄を習得する。	1後	32	2	○			○			○
○		セキュリティ	セキュリティの基礎知識、ウィルス対策、認証に関する知識、サーバのセキュリティについて学ぶ	1後	32	2	○			○			○
○		データベース応用	幾つかのRDBMSを使い、SELECT文などのSQLの使い方や、トランザクション処理について学ぶ。	1後	32	2	△		○	○			○
○		ドキュメント技法	ビジネス文章の作成について、基本ワープロソフトを活用し、作成方法を学ぶ。	1後	32	2	○		△	○			○
○		アルゴリズム演習	基本的な命令の組み立て方を理解し、データ検索や並べ替えなどの代表的なアルゴリズムを学習する	1後	64	4	○			○			○
○		プログラミング応用	Excel VBAによるプログラミング実習を通じて、論理的思考能力の育成と基本的なアルゴリズムの習得をする。	1後	64	2	△		○	○			○
○		ソフトウェア設計	基本情報技術者試験の午後試験「表計算の問題」をテーマに、関数及びマクロを使用したシステムの設計手法について学ぶ	1後	64	2	△		○	○			○
○		Webデザイン応用I	動的なWebサイト制作を通して、フロントエンド・バックエンドにおける実践的な企画力、技術力を学ぶ	1後	64	2			○	○			○
○		情報処理試験対策I	情報処理技術者試験に向けた対策演習を行う。	1後	64	4	○			○			○
	○	インターンシップ	IT企業と連携し、SE業務知識やクラウド技術など、ITエンジニアとして必要とされる知識・技術をIT企業の指導者のもとに作業しながら学ぶ。	1後	64	2			○				○
	○	特別講義I	既存のカリキュラムでは開講されていない、業界で必要とされる知識・技術を取り上げて学ぶ。	1前	32	2	○			○			○
	○	特別講義II	既存のカリキュラムでは開講されていない、業界で必要とされる知識・技術を取り上げて学ぶ。	1後	32	2	○			○			○
○		生き方講座III	仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身につける。	2前	32	1			○	○			○

○		生き方講座Ⅳ	仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身につける。	2 後	32	1			○	○		○			
○		情報処理試験対策Ⅱ	情報処理技術者試験に向けた対策演習を行う。	2 前	64	4	○			○		○			
○		情報処理試験対策Ⅲ	情報処理技術者試験に向けた対策演習を行う。	2 後	64	4	○			○		○			
○		ネットワーク応用	インターネットの活用ができるように、仕組みや接続方法、Webブラウザ、メールクライアントの設定、セキュリティ、サービスの利用と法律を学ぶ。	2 前	64	3	△			○	○		○		
○		ビジネスプランニング	ヒト・モノ・カネ・情報の視点からビジネスプランを策定し、ビジネス企画における基礎的な知識及び技術を学ぶ。	2 後	32	2	○			○				○	○
○		Webサイト構築Ⅰ	WordPressを使用し、Webサイトの設計から構築までの技法・技術を学ぶ。	2 前	64	3	△			○	○				○
○		Webサイト構築Ⅱ	PHPを使用した、動的なWebサイト構築技術を学ぶ。	2 後	64	3	△			○	○				○
○		ソフトウェア開発知識Ⅰ	基本情報処理技術者に求められる、基本知識を身に付け、基本情報処理試験の受験を目指す。	2 前	64	4	○			○			○		
○		ソフトウェア開発知識Ⅱ	応用情報処理技術者に求められる、応用的知識を身に付け、応用情報処理試験の受験を目指す。	2 後	64	4	○			○			○		
○		オブジェクトプログラミングⅠ	Javaの命令と文法およびオブジェクト指向を理解し、簡単なプログラムを作成できる力を養う。	2 前	96	4	△			○	○		○		
○		オブジェクトプログラミングⅡ	オブジェクト指向プログラミングを理解し、Javaを用いてGUIを利用した簡単なソフトウェアを作成できる技術を身につける。	2 後	96	4	△			○	○		○		
○		データベース構築	データベース管理システムのインストールから、多くのユーザを前提とした運用・管理までの操作方法を、実習を通して学ぶ。	2 後	64	3	△			○	○		○		
○		オブジェクト指向設計	オブジェクト指向開発でのプログラム設計ができるよう、UMLを理解し、簡単なシステムを記述できるようにする	2 前	64	3	○		△	○					○
○		Linux	オープンソースOSのLinuxについて、動作原理とコマンドによる操作方法について学ぶ。	2 前	32	2	○		△	○					○

○		サーバー構築	LinuxOSといくつかのミドルウェアのインストール技術、各種サーバサービスの設定と動作原理を学ぶ。	2 後	32	2	○		△	○				○
○		セキュリティ演習	仮想環境に作成されたサーバの脆弱性を調査し、セキュリティ対策の実施についてレポートにまとめて発表する。	2 後	32	2	○			○		○		○
○		システム設計演習	システム開発工程で作成される各種ドキュメント（仕様書）を作成し、システム設計の手法を学ぶ。	2 後	64	3	○		△	○		○		
	○	特別講義Ⅲ	既存のカリキュラムでは開講されていない、業界で必要とされる知識・技術を取り上げて学ぶ。	2 前	32	2	○			○		○		
	○	特別講義Ⅳ	既存のカリキュラムでは開講されていない、業界で必要とされる知識・技術を取り上げて学ぶ。	2 後	32	2	○			○		○		
○		生き方講座Ⅴ	仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身につける。	3 前	32	1	○			○		○		
○		生き方講座Ⅵ	仕事の基本としての基礎知識、ビジネス常識と共に、文書の書き方、ビジネスマナーなどの社会人としての知識を身につける。	3 後	32	1	○			○		○		
	○	情報処理試験対策Ⅳ	情報処理技術者試験に向けた対策演習を行う。	3 前	32	2	○			○		○		
	○	情報処理試験対策Ⅴ	情報処理技術者試験に向けた対策演習を行う。	3 前	32	2	○			○		○		
○		クラウドコンピューティング	SelesForceを利用したクラウドシステムの設計構築技術を学ぶ。	3 前	32	2	○			○		○		○
○		Rubyプログラミング応用	Ruby ON Railsを用いたWebアプリケーションの開発について学ぶ。	3 前	96	4	△			○	○	○		
○		モバイルプログラミングⅠ	Java言語を使用してAndroid端末で動作するアプリケーションを作成する。特にモバイル端末の操作特性を知り、ユーザインタフェース設計を中心に行う。	3 前	96	4	△			○	○	○		
○		モバイルプログラミングⅡ	各種センサやデータベース、HTTP通信を使用した、Java言語によるAndroidアプリケーションを設計及び開発する。	3 後	64	3	△			○	○	○		
○		ネットワーク構築Ⅰ	小規模ネットワークを管理できる技術の習得。OSI参照モデル、TCP/IPプロトコル、LANの基本、レイヤ2スイッチ、RPI、ネットワークセキュリティを学ぶ。	3 前	64	3	○		△	○		○		

○		ネットワーク構築Ⅱ	小規模ネットワークを管理できる技術の習得。WAN、PPP、無線LANを学ぶとともに、ネットワーク構築実習を行う	3後	64	3	△		○	○	○			
○		IoTデバイス演習	ArduinoやLEGO Mindstormといった機材を活用し、各種機器の制御の仕組みやプログラミングを学習する。	3前	96	4	△		○	○	○			
○		ビジネスデータ分析	Excelを利用したビッグデータ分析技法および、基礎的な統計分析技法を学ぶ。	3後	32	2	○			○	○			
○		AIプログラミング	Pythonおよび各種ライブラリを用い、文字認識・画像識別などのAI活用技術を学ぶ。	3後	32	2	○	△	○		○			
○		プロジェクトマネジメント	システム開発におけるプロジェクトマネジメントについての知識の取得と、プロジェクトマネジメントで実施すべき事柄を習得する。	3後	32	2	○			○	○			
○		システム開発実践	グループを組んで、オリジナルなシステムの設計・開発を行う	3後	160	5			○	○	○			
	○	特別講義Ⅴ	既存のカリキュラムでは開講されていない、業界で必要とされる知識・技術を取り上げて学ぶ。	3前	32	2	○			○	○			
	○	特別講義Ⅵ	既存のカリキュラムでは開講されていない、業界で必要とされる知識・技術を取り上げて学ぶ。	3後	32	2	○			○	○			
合計				61科目		3,264単位時間(163単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。